



第11号
2020年7月発行

介護老人保健施設
アルカディア
ホームページQRコード→



日本の健康寿命は年々増加し、今では100歳を超える人口は7万人を超えようになりました。東京ドームの収容人数が5万5千人規模です。その数は驚くべき数値だといえます。人間の寿命が延びることは尊いということだけではなく、認知症とも切り離すことのできない大きな問題であると思います。平成29年の高齢者白書によると2025年には認知症は高齢者の5人に1人と言う割合になると試算されています。とても不安になる数値です。そこで当施設では認知症ケアにも力を入れることを一つの柱としています。

アルカディアでの取り組み

『施設内研修会 認知症ケア講習会』

当施設では、認知症ケア専門士や、認知症介護実践リーダーなど、認知症ケアに関する研修修了者が多数在籍しています。昨年4月から、施設職員のスキルアップを目的とした認知症ケア講習会を開催しており、2019年度は、講習会を合計10回開催し、延べ125名の参加がありました。認知症について学ぶ機会を施設職員だけに限定するのは・・・もったいない！在宅で介護している御家族の役に立ちたい！

今回お伝えする記事は、当施設に在籍する認知症ケア専門士が、少しでも皆様のお力になれるようにと内容を作成しましたので、是非ともご覧ください。

令和2年1月に開催しました。



認知症ケア講習会
【実施風景】

認知症は記憶障害 だけではありません！

～ 前頭側頭型認知症の特徴 ～

- ・ 理性や抑制が働かず思ったらすぐ行動をしてしまう状態
【反社会的と言われてしまう行動、万引きや痴漢、信号無視など一般的行動から外れるようなことをする】
- ・ 周回
【徘徊とは違い同時刻同じコースをたどり戻ってこられる】
- ・ 常同行動
【決まった行動をとる。強引に止めてしまうと急に激怒し暴力をふるったりしてしまうこともある】
- ・ 食欲も異常に旺盛になり目の前にあるだけ全部食べてしまうことも…。



らは障害であって、その方の人格ではありません!!
脳の損傷に過ぎないのです・・・。

これ

認知症になる前のご本人の情報を集め、『どんな人生を歩まれて、どんな方だったか?』を思い描きながら接することが、ご本人の尊厳を守り、ご本人との信頼関係を築く大事なポイントとなります。

認知症の方は自分が感じている精神的、肉体的苦痛を上手く伝えることが出来ません!!

行動・心理症状と

なつて現れることも

認知症状の改善は困難ですが、「精神症状」や「行動症状」への適切なケアによって軽減できます。

しかしBPSDが悪化すると、対応が困難になり、中核症状の進行となります。

） BPSDと薬剤 ）

BPSDに対して使用されている向精神薬は鎮静などを目的としているため注意力の低下やふらつきなどから転倒の危険性が高まることが報告されており、BPSDを安易に薬剤で緩和する事は避けた方がよいといえます。

） 日頃の環境づくりも

大きなポイント！

人間の五感に与える環境

【視覚】

室内のカーテンや心を癒す自然色、自然を意識した装飾など

【聴覚】

ヒーリング
せせらぎ音などの環境音

【嗅覚】

アロマオイルやご飯の炊ける香り、リラククスできる香り

【味覚】

本人にとって懐かしい味や甘未で脳のリラックス

【触覚】

ハンドマッサージやぬいぐるみなどの心地よい毛並みなど

情動調律

じょうどうちようりつ

上記の症状や発症年齢には個人差があります。必ずしも高齢者全員に見受けられるものではないですが、多くの高齢者に関連する特徴となっています。

このような認知症を発症しても、相手の行動や状況から、相手の感情を推察し、その感情に対して反応する行動を「情動調律」といいます。

例えば、子供が転んだ時に「痛い痛い」の飛んでけ〜」など子供の気持ちに合わせて応えるといった事を行った方もいらつしやるかと思えます。これが情動調律です。

身の回りの状況を理解することが難しくなった認知症の方には、この情動調律によるコミュニケーションがより重要になるのです。認知症の方が訴えているのは、ご本人にとって実際に起きている内容なのです。その事柄を否定してしまうと、私たちに對し不信感や不安を抱かれる形となります。もし認知症の方が不安に感じている時は、介護者が優しく穏やかに接すれば、その感情が伝わり、本人の精神状態も穏やかになりやすくなります。それは言葉だけではなく、優しく触れ合うことも大きなポイントです。むかしから「手当て」と言う言葉が治療場面でも使われているように、触れ合うことは人にとってプラスに働くことが多く見られ、今では科学的に実証されています。言葉と人のぬくもり、そしてそれを実践する皆さんの心の在り方が認知症の方に安らぎを与えることになることを忘れてはいけません。

対応策

まず認知症を知り理解する事が対応策の第一歩です。

認知症を発症すると脳で処理できる情報量が低下するので、自分の身の回りで起こることが早送りのように見えてしまい、慌ただしく感じるとも言われています。

そんな中でも、できるだけ周囲の状況を理解しようと頑張り続けることで、脳と心は疲れ切ってしまうのです。

その結果、認知症の方は、介護者や周囲の人にイラつきや混乱を募らせてしまい、またさらに心が疲れてしまう・・・という負のスパイラルに陥る恐れがあります。

大切なのは、介護者が会話や動作をゆっくり行い、認知症の方のペースに合わせる事です。

そのように接し方を変えるだけで、認知症の症状が驚くほど穏やかになることも少なくありません。

もし、認知症や介護でお困りの際は、通所・短期入所・長期入所など、当施設へご相談下さい。

ご利用者の介護だけではなく、ご家族へのアドバイスなども対応致します。

今回のFIELDはいかがだったでしょうか。武蔵村山市も武蔵村山病院を始め、認知症の取り組みには地域で行っていく必要があると思っています。

それは医療や福祉の関係者だけの話ではありません。より身近にいるご家族の方の理解がとても重要になり、早期発見早期対応に繋がると思います。

近隣地域向け広報誌

『FIELD』フィールド

をご覧ください。

誠に有難ございます。

◇次回は10月発行です。

次回も、皆様へお役立ち情報等をお伝えします。

◇施設見学をお受けしております。ご興味のある方は左記の連絡先までお問い合わせください。

◇ホームページでは施設内や行事等の紹介もしております。QRコードよりご覧ください。

ホームページQRコード



Twitter



Instagram



Facebook



介護老人保健施設
アルカディア

東京都武蔵村山市三ツ藤1-98-1

info@arcadia-ai

ai.go.com

042-569-3900 (代)

042-569-3900 (代)